

サンディエゴに暮らしている
日本人家族のコミュニティを作ろう

UCSD プロフェッショナル 日本語クラス (135C)

2017の春学期のプロジェクト

目次

イントロダクション	
日本での少子化問題とプロジェクトのゴール	1
イベント内容	
①当日の流れ	2
②アイスブレイキングのビンゴ	4
③ディスカッション	5
④アクティビティの説明	6
イベントの結果報告	8
メンバーの紹介とプロジェクト感想	10
イベントの写真	14
Project Summary・プロジェクトのまとめ	18

イントロダクション

日本では、深刻な少子化が進んでいます。特に近年は、日本政府も少子化問題を全国規模の社会問題として取り扱い、市や団体と協力しながら解決方法を考えています。少子化の原因は色々ありますが、やはり現代社会の進歩により、男女平等観念の強調や急激な女性の社会進出の影響が一番大きいでしょう。その反面、政府側は大きく損なわれた出産育児環境への対処がかなり遅れています。働く女性は満足な出産休暇が取れず、時には二度と元の職場に戻れないケースも多々あります。他にも、高学歴社会では当然子供一人を養うための教育費も高くなっています。しかし企業や政府側からの資金援護はまだ少ないところもあるようです。日本は出産育児のサポートがまだ完璧に整備されていないことがリサーチで分かりました。

そこで、私たち135メンバーは、サンディエゴにいながら自分たちが出来ることは何かを考えて、1つのプロジェクトを企画しました。その名前は「ファミリー・コネクト」です。イベントのゴールは「家族たちが友達になり、定期的に連絡を取り合い、お互いを助け合えるコミュニティーを作ること」です。その為に、家族たちが交流を深めるためのアクティビティーを行いました。サンディエゴに来たばかりの日本人家族はアメリカでは色々不便を感じるがあると思います。文化の違いや言語の違いに戸惑うことが多く、アメリカの生活に慣れるまでとても時間がかかります。

我々はサンディエゴ在住の日本人の子育てコミュニティーを作ることを目指し、各日本人家族がお互いをサポートしながら育児ができるように、それによって少しでも少子化問題が解決できればという一心でイベントを行いました。その為、我々は今回のイベントを企画し、特にUCSD校内の日本人家族に来てもらい、子育てコミュニティーを作りました。イベントでは、ゲームを通じて親御さんたちやお子さんたちの仲を深めたり、子育て経験者から情報を共有してもらったり、サンディエゴ内での子育てサポート施設を紹介したり、さらに、校内の育児サポート機関にゲストスピーカーとして来てもらったりして、子育てコミュニティーを作るお手伝いをしました。

1.当日の流れ(4/30)

4月30日 日曜日		午後 1時~3時		
場所 : Comunidad, Price Center				
タイムライン	担当者	すること	準備物/備考 (びこう)	
準備	12:00	レイ、フー	発表の準備	スライドを準備 : レイ、ジェフ
		ミッシェル、イーブ	スナックとパンフレットの準備 テーブルをセットアップして、 お菓子、飲み物、パンフレット とペンをテーブルに置く。	買う人: ケーキ、ジェフ
		ディージー、ジェフ	アクティビティー練習	DJ: ピンゴカード、ピンゴの質問、言葉リスト ジェフ: ダンボール ケーキ: 厚い布
		ジェリー、チョー	ボランティアのイベント進行中の仕事を役割分担する、参加者への挨拶、プロジェクトの説明	Kristi(写真家)と Samuel(目隠しゲーム)
		ケーキ、ファン、エマ	誰が何をすべきか「流れ」を見ながら指示する。イベント全体を見る	タイムキーパー 担当: ケーキ
	12:50	ボランティア ケーキ&イーブ	会場の入り口で場所の案内をする 部屋のサイン(ポスターと矢印→)を貼る	2-3人: Shinya, Natalie(後で目隠しゲーム)
イントロ/アイスブレイキング	1:00	ジェリー	MC: イベントスタート	
	1:00-1:02	ジェリー&チョー	丁寧&フレンドリーな雰囲気(ふんいき)を作る	イベントスタートから終わりまで
	1:02-1:7	ケーキとフー	イベントの紹介(4-5分)	レイさんのパソコン: スライド ケーキ: 1-6 / フー: 7-15 この時点でピンゴの準備を始める
	1:8-1:15	ケーキ(メンバー全員)	メンバー紹介(1人30秒x8人=約6分)+挨拶(2分)	
	1:15	ミッシェル、DJ、ジェフ	アイスブレイキング「ピンゴ」(20分以内)	~30枚 ピンゴカード、ピンゴの質問、鉛筆
		ハンチョー	MC	
	1:35	レイ、イーブ、フー	ディスカッション(20分)	レイさんのパソコン: スライド
		ハンチョー	MC	
1:55-2:05	ジェリー&チョー	MC: アクティビティー準備/お菓子の時間(15分 adjusting time)	必要なもの: お菓子	
アクティビティ	2:05	ミッシェル、DJ、ジェフ	Charade(シャレード)(20分)	ジェフさんのパソコン: スライド / 説明者: ジェフ / この時点で、目隠しゲームの準備を始める
	2:25-2:30	ボランティア	アクティビティー準備(5分)	椅子を分ける
		ジェリー	MC	
	2:30	ミッシェル、DJ、ジェフ	目隠しゲーム(20分)	必要なもの: 壁、テープ
挨拶	2:50	ケーキ	閉会の言葉	スクリプト
	3:00	全員	部屋の掃除時間	

1. 当日の流れ(6/4)

	6月4日	日曜日	午後 1時~3時	
	場所 : Thurgood Marshall Room, Price Center			
	タイムライン	担当者	すること	準備物/備考(びこう)
準備	12:00	レイ、フー	発表の準備	PC: ジェフが持ってくる コネクター: ケーキ スライド準備: レイ、ジェフ スライドを進める: ジェリー
		ミッシェル、イーブ	スナックとパンフレットの準備 テーブルをセットアップして、お菓子、飲み物、パンフレットとペンをテーブルに置く。	買う人: ケーキ、ジェフ
		DJ、ジェフ	アクティビティー練習	DJ: ビンゴカード、ビンゴの質問、言葉リスト
		ケーキ、ボランティア	サインアップシート(参加者&ボランティア用)を準備する担当	
		ジェリー、チョー	ボランティアのイベント進行中の仕事を役割分担する、参加者への挨拶、プロジェクトの説明	フーと(写真家)
		ケーキ、ファン	誰が何をすべきか「流れ」を見ながら指示する。イベント全体を見る	タイムキーパー 担当: ケーキ
	12:30	ゲストスピーカー	到着	ジェリーは内容打ち合わせ
	12:50	ボランティア、ケーキ&イーブ	会場の入り口で場所の案内をする 部屋のサイン(ポスターと矢印→)を貼る	2-3人: ボランティア
イントロ/アイスブレイキング	1:00	ハンチョー	MC: イベントスタート	
	1:00- 1:02	ジェリー&チョー	丁寧&フレンドリーな雰囲気(ふんいき)を作る	イベントスタートから終わりまで
	1:02- 1:10	ケーキ(メンバー全員)	あいさつとメンバー紹介(5-7分)	スライド 1-5: ケーキ スライド 6-14: フー
	1:10- 1:20	フー	サンディエゴの子育て機関の紹介(10分)	この時点でビンゴの準備を始める
	1:20	ミッシェル、DJ、ジェフ	アイスブレイキング 「ビンゴ」(20分以内)	DJ: ビンゴカード印刷30枚、 ビンゴの質問、鉛筆/ 説明者: ジェフ
		ハンチョー	MC	
	1:40	レイ、イーブ、フー	Info-session / Q&A (20分) Back-up plan: ディスカッション	ゲストスピーカー
		ハンチョー	MC	
	2:00	ジェリー&チョー	MC: アクティビティー準備/お菓子の時間(10分 adjusting time)	必要なもの: お菓子
	アクティビティ	2:10	ミッシェル、DJ、ジェフ	Charade (シャレード) (20分)
2:30		ボランティア	アクティビティー準備(5分)	椅子を分ける
		ジェリー	MC	
2:35		ミッシェル、DJ、ジェフ	ファミリーコネクト(20分)	ジェフさんのパソコン: スライド / 説明者: DJ
挨拶	2:55	ケーキ	閉会の言葉・グループの写真を撮る	スクリプト
	3:00	全員	部屋の掃除時間	

2.アイスブレイキングのビンゴ

1回目と2回目のイベント前半に、フレンドリーな雰囲気を作るためにビンゴゲームをしました。

ビンゴのルール

1. 質問をして、「はい」という返事の人を見つける。そして、その人の名前を、マスの中に書く。真ん中はフリーポイント。
2. これを繰り返して、2列揃ったら、「ビンゴ」と言って、手を挙げる。

イベント1のビンゴカード

旅行が好きな人： ：	楽器演奏できる人： ：	今年の夏に日本へ帰る予定がある人： ：	家族の中で赤ちゃんがいる人： ：	兄弟は2人以上がある人： ：
動物が苦手な人： ：	歌が得意な人： ：	水泳が好きな人： ：	今年、すでに花見に行った人： ：	野球が好きな人： ：
踊りが得意な人： ：	お寿司が好きじゃない人： ：	フリーポイント	カラオケが好きな人： ：	英語と日本語以外の言葉を話せる人： ：
ステーキが好きな人： ：	今年の冬に日本へ帰る予定がある人： ：	アメリカのハンバーガーが好きな人： ：	料理が好きな人： ：	2020年オリンピックへ行きたい人： ：
犬を飼っている人： ：	日本とアメリカ以外の国に行ったことがある人： ：	和菓子が好きじゃない人： ：	2000年以降に生まれた人： ：	「君の名は」を見たことがある人： ：

イベント2のビンゴカード

ポテト・チップ・ロックに行った人： ：	友達に連絡する時、Lineが一番多く使う人： ：	今年の夏に日本へ帰る予定がある人： ：	アメリカのハンバーガーが好きな人： ：	兄弟の2人以上がいる人： ：
今年の冬に帰国する予定がある人： ：	2000年以降に生まれた人： ：	英語と日本語以外の言葉を話せる人： ：	お寿司が好きじゃない人： ：	5カ国語以上の言語を話せる人： ：
メロンパンが好きじゃない人： ：	今年、花見に行った人： ：	フリーポイント	猫が好きな人： ：	一番好きな季節は秋の人： ：
アメリカのディズニーランドに行ったことがある人： ：	日本とアメリカ以外の国に行ったことがある人： ：	アメリカへ来た理由は客員学者である人： ：	小説をよく読む人： ：	2020年オリンピックへ行きたい人： ：
犬を飼っている人： ：	家族の中で一番若い人： ：	動物が苦手な人： ：	JPopが好きな人： ：	「君の名は」を見たことがある人： ：

3. ディスカッション

概要

このフリー・ディスカッションは春学期1回目の4月30日のイベントで行いました。一回目のイベントを実施する前に、私たちはニーズ調査を行って、参加者から興味があるテーマや話題を聞きました。そして、このディスカッションをデザインしました。参加者にサンディエゴに来た理由や、これまでのアメリカ生活の経験、または日本とアメリカの文化の違いなどについての質問を用意して、ディスカッションを行いました。

ルール

参加者は三つのカテゴリーから一つを選んで、出た質問に対して自分の意見を自由に話しました。

質問

1) プライベート:

- サンディエゴに来た理由は何ですか。
- サンディエゴに、どのくらい日本人のお知り合いがいますか。
- 家族ぐるみのおつきあいをしていますか。
- サンディエゴで、何か日本人コミュニティーに入ったことがありますか。

2) ライフスタイル:

- アメリカの生活で、どんな便利／不便なことがありますか。
- 孤独を感じる時、何をすると気分がスッキリしますか。
- 暇な時、どんなことをして過ごしますか。

3) 言語と交流と文化:

- どんなネットメディアappを使っていますか。
- アメリカで日本人に対するステレオタイプを聞いた時にどんな気持ちを持ちますか。
- 子育てをする中で、日本では絶対できないけど、アメリカではできることがありますか。また、その反対はありますか。何ですか。

4-1. アクティビティ

シャレード

シャレード(Charade)というのは身振り手振りで言葉を説明するゲームです。遊び方は下にあります。

- 1) 2つのチームに分かれて、1人代表者を選びます。その人がジェスチャーをします。
- 2) ジェスチャーを見ながら、2分以内に言葉を推測します。
- 3) もし言葉が難しすぎたら、パスが出来ます。
- 4) 一番多く言葉を当てたチームが勝ちます。

言葉リスト

感情： うれしい かわいい イライラ けんか かなしい
 ワクワク ドキドキ きらい すき おもしろい

動物： 犬(いぬ) 猫(ねこ) 魚(さかな) 豚(ぶた)
 牛(うし) ネズミ 鳥(とり) 猿(さる)
 ゴリラ 馬(うま) 虎(とら) 兎(うさぎ)

スポーツ： 野球(やきゅう) バasketボール テニス
 バレーボール アイススケート すもう
 サーフィン フリスビー サッカー
 ジョギング ハイキング
 アメリカンフットボール 水泳(すいえい)

家族関係： 母(はは) 父(ちち) 兄(あに) 姉(あね)
 弟(おとうと) 妹(いもうと) おばさん
 おじさん おじいさん おばあさん

職業： 警察(けいさつ) 教師(せんせい) 医者(いしゃ)
 看護師(かんごし) 消防士(しょうぼうし)
 救急救命士(きゅうきゅうきゅうめいし) アイドル
 歯医者(はいしゃ) 弁護士(べんごし)
 銀行員(ぎんこういん)

食べ物： ラーメン 餅(もち) アイス ケーキ とうふ
 焼肉(やきにく) しゃぶしゃぶ お寿司(すし)
 刺身(さしみ) パスタ

4-2. アクティビティ

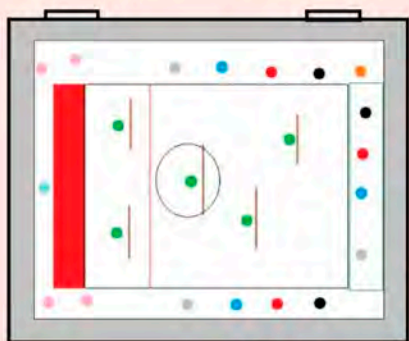
目隠しゲーム

4月30日のイベント1を実施する時、最後のアクティビティとして目隠しゲームをしました。

ルール

- 1) グループから代表を1人選びます。
- 2) 目を隠しながら、自分のチームメンバーの指示を聞き、ゴールに進みます。
- 3) 段ボールの障害を避けながら、一番早くゴールに着いたチームの勝ちです。

目隠しゲームのレイアウト



赤、黒、青、灰色の点は各ご家族のチームです。緑色の点はボランティアです。茶色のラインは段ボールの壁で、左の赤いラインは障害コースのゴールです。

ファミリー・コネクト (Human Knot)

6月4日のイベントで、新しいアクティビティをしました。英語の名前は「HUMAN KNOT」といいますが、みんなで輪になるゲームですから、私たちは「ファミリー・コネクト」ゲームと呼びました。

このゲームは、複数の参加者がランダムに手をつなぎ、円を作っていくゲームです。子どもや大人が手をつないで協力して行うゲームですから、チームワークができて参加者は友達になりやすいと思い、取り入れました。結果は大成功でした！

イベントの報告

記

1) 概要

6月4日(日)午後一時から三時まで、私たちJAPN135Cの学生たちは、2017年春学期の最終の「ファミリー・コネクト」をUCSDのPrice CenterのMarshall Roomで開催しました。私たちはこのイベントを通して、サンディエゴに引っ越したばかりのお子さんがいらっしゃるご家族たちの間の絆を深め、サポートし合えるコミュニティーを作ることを目指しました。イベント当日に、五つの家族、合計14人の参加者が来てくれました。私たち学生9名と講師、また5人のボランティアを含め、総勢29名でイベントを行いました。まず最初に、イベントゴールやメンバー紹介、またキャンパス内外の子育てサポート施設について紹介しました。次に、アイスブレイキングで参加者の皆さんが知り合えるような活動を行いました。そして、ゲストスピーカーをお呼びし、UCSDのチャイルドケアの情報を紹介して頂きました。イベント後半では、シャレードというジェスチャーゲームで場を盛り上げました。そして最後に、参加者全員で参加できるゲームを行い、大人から子供まで皆さんに楽しんでいただきました。

2) 上手くいったこと、上手くいかなかったこと

これまでに2回「ファミリー・コネクト」イベントをしてきましたが、最後のイベントが一番成功したと思います。イベント中、私たち学生とボランティアも積極的にアクティビティーに参加して、会場でフレンドリーな雰囲気を作れました。参加者たちが話し合ったり、連絡先を交換したりすることができて、全員がこのイベントを楽しんでくれたようでした。イベントが終わった後に、参加者たちにアンケートを書いて貰いましたが、その結果によると、今回の「ファミリー・コネクト」の総合的な満足度は、5つの解答中、4つが「とても満足」と、1つが「満足」でした。他にもポジティブな評価が多く、コメントとしては「とても意味のあるイベントだと思います」や、「学生の熱心な様子が素晴らしかったです」などの意見がありました。その結果から、イベントは大成功だったと感じました。

イベントの報告(続き)

反省点があるとしたら、ゲストスピーカーのインフォメーションセッションで、なかなか参加者から質問が出なくて会場が静かになってしまったことです。これからイベントを準備する時、あらゆる状況を想定し、事前にいくつかの質問を準備をしておいたほうが、シャイな日本人参加者たちのテンションを上げることができます。

3) イベント全体を通して学んだこと

「ファミリー・コネクト」全体を通して学んだ一番大切なことは、チームワーク、つまり、「ほうれんそう」だと思います。「ほうれんそう」というのは、報告、連絡、相談ということです。皆は多分、これからたくさんチームプロジェクトに参加することになると思います。もしそうだったら、自分の担当することをしっかり完成させなければいけません。また、全体の締め切りや方向性を確認するためにもロードマップをしっかりと見ることも重要です。自分の部分を完成した後での報告とパートナーへの連絡も必要です。そして、もし遅れることになったり、力が及ばないことがあれば、きちんと周りの人と相談しなければなりません。今後のイベントを計画する時、「ほうれんそう」を徹底し、全ての状況への対策をできる限り考えて、より効率的に進められるように努力したいです。

以上

メンバー紹介



カブス・ケイキラニ(リーダー)

自己紹介:私は大学5年生です。専攻は日本学、特に日本の経済や政治に関する問題を研究しています。出身はハワイです。趣味は読書や麻雀や野球や料理をすることです。今年の7月から英語の先生になるために、日本に3年間住む予定です。

プロジェクトの感想

ファミリー・コネクトのイベントを計画し、参加者をお呼びしたりさらにいい内容を作る工夫をすることがとても大変でした。皆で一緒に努力して、いろいろな資料を作成したり、日本語を使ってコミュニケーションスキルを身につけたりすることができました。

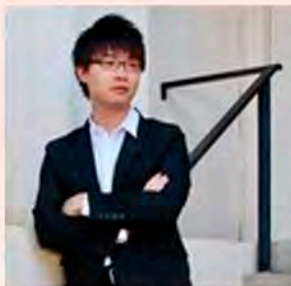


ジェリー(コーディネーター)

自己紹介:私はUCSDの大学二年生です。生物化学を専攻しています。中国語、日本語と英語の三か国語が話せます。普段は芸能人のラジオやバラエティー番組を通して日本語の勉強をしています。アニメと声優さんの知識は人並み以上持っています。普段の趣味は野球観戦です。

プロジェクトの感想

参加者やボランティアさん達とメールのやり取りをするのが主な仕事でした。「ファミリーコネクト」イベントに参加して学んだことはアメリカにいるからこそ、同じ言語が話せる人は協力して困難を克服するべきだということです。参加者たちの笑顔を見られることが我々のやり甲斐になりました。

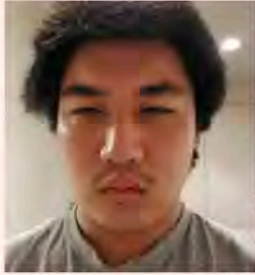


ハンチョー・リュウ(コーディネーター)

自己紹介:僕はUCSDの四年生です。専攻は計算機科学、副専攻は日本学で、日本語の勉強はこれで四年目です。これからはゲーム開発者を目指して大学院に進学します。機会があったら日本のゲーム会社に入りたいです。

プロジェクトの感想

「ファミリー・コネクト」に参加したのは春学期からですけど、とても素晴らしいイベントだと感じています。これは実際にネイティブの日本人の方々とお会いし、育児についてお話しでき、学生の僕たちが役に立てたプロジェクトだと思います。だから、とてもいい経験を得ました。



フー・ブルース(広報)

自己紹介:UCSDの四年生で、専攻は視覚芸術と日本学です。今私はビデオ制作のポストプロダクションに集中していて、特にビデオを編集する事とアニメーションをがんばっています。ビデオゲームです。

プロジェクト感想

ファミリー・コネクトのイベントを行うために私達はプロフェッショナル日本語のクラスでとても頑張ってきました。イベントの当日はリハーサル通りに行動ができましたから、ファミリー・コネクトのイベントは成功したと思います。参加者のみなさんの楽しそうな表情を見てクラスメートの努力を再認識しました。



ドウエニヤス・ミシェール(広報)

自己紹介:人体生物を勉強する四年生です。絵を描くことやゲームデザインや漫画を読むことが好きです。日本語を勉強していると、色々な人に会えますから本当によかったです。

プロジェクトの感想

今学期にこのチームのメンバーになって、色々なことを習いました。プロジェクトは大変でしたけど皆がよく頑張りましたから、本当に成功したと思います。この135クラスで、ファミリー・コネクトのイベントに参加できて嬉しかったです。



イー・ピアウエイ(イベント責任者)

自己紹介:チームスポーツが大好きです。最近は剣道バカをなりました。趣味は...多すぎます。専攻は機械工学ですけど、以前から人間関係にも興味があります。

プロジェクトの感想

このプロジェクトに参加して、私は人として成長することができました。このプロジェクトに最後まで参加できて嬉しかったです。私がこのイベントを企画した理由は、コミュニティーがない日本人ご家族をサポートしたいと思ったからです。人々が気づくべき最も重要なことは、人間は一人ではないということではないでしょうか。



レイ・シャオジュン(イベント責任者)

自己紹介:出身は中国の四川です。数学/コンピュータサイエンスを専攻し、副専攻はデジタル音楽と日本学科です。日本の文化に興味があるので、JAPN135のクラスを取りました。他の興味は音楽鑑賞と音楽を作曲することです。作曲とプログラミングが得意です。

プロジェクトの感想

色々なことが勉強になりました。このプロジェクトを通じて、自分はコミュニケーションがあまり得意ではないと感じました。今後はもっとグループメンバーと交流出来るように頑張りたいです。

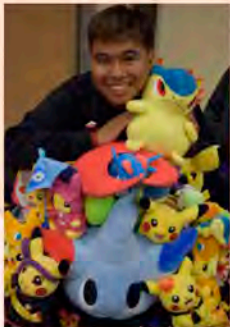


チャン・ジェフ(アクティビティ担当)

自己紹介:私の出身は台湾です。私は小学校五年生の時、アメリカに生まれました。私の専門は日本語学です。趣味はアニメとゲームと漫画です。一番好きなスポーツはバスケットとバドミントンです。最後に、一番大好きなタイプはポニーテールをしている女の子です。

プロジェクトの感想

短期間でイベントの企画と準備をしたので、とても大変でした。しかし、このイベントを通して、企画書を作ることやコミュニケーションや役割分担の重要性を学びました。とてもいい経験になったと思います。



ソリアノ・デリエン(アクティビティ担当)

自己紹介:私は生まれてからずっとサンディエゴに住んでいるので、大学を卒業した後で、ジェットプログラムの英語の教師として日本で働きたいと思っています。文化をはじめ、食べ物とか、慣習とか、日本の事に興味があるので、日本学の専攻を決めました。趣味はビデオゲームをする事とか、テコンドーをする事とか、料理私の一番好きなビデオゲームは「ポケットモンスター・ハートゴールド」です。一番好きなポケモンはバクフーンです。

プロジェクトの感想

このプロジェクトは本当に大変でしたけど、本当に楽しかったです。コミュニケーションとか、企画書を書く事とかを習って良かったです。本当に良い経験でした。

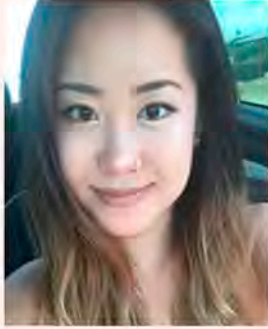


ファン・ジンウー(ボランティア)

自己紹介:私は北京からの留学生です。今までサンディエゴに4年間を住んでいます。先学期に卒業しましたが、今ボランティアになります。私が一番好きなことは旅行です!なぜかと言うと、色々なところに行って、面白い人たちと会えます。未来の人生はまだ見えないけど、心配していません。今、自分のこの4年間の思い出をまとめていて、それを今年中に出版したいと思っています。

プロジェクトの感想

最初のイベントの参加者があまりいなかったから、効果的なプロモーション方法を何度も考えました。このイベントから私は自分に不足していることも発見でき、友達と先生から大切なことを学びました。リーダーシップ、役割分担、熱意の大切さがわかり、感動しました。人の心を変えるのは難しいけど、このイベントを通してもっと強い人間になれて、嬉しいです。



大澤 佐織(ボランティア)

自己紹介:サンディエゴには、3年前に日本から留学生としてきました。UCSDのエクステンションで二年間勉強し、今は大学院で英語教師になるため、学業に励んでいます。この日本語クラスには、ボランティアとして去年の秋学期から参加させていただいています。

プロジェクトの感想

日本で起きている社会問題をテーマにプロジェクトに取り組むと聞いた時は、とても難しい課題に挑んでいるなと思いました。同時に、日本人の視点から日本の社会問題を改めて考えるというのは、私自身にとっても、改めて考えて日本の社会を見直すきっかけにもなりました。残念ながら、プロジェクト当日は参加できなかったのですが、実行までの過程に少しでも参加できたことに感謝しています。



武田 泉(講師)

自己紹介:毎年学生たちが様々な日本の社会問題をテーマにリサーチを行い、サンディエゴで実際に行えるコミュニティーサービスを企画・実行しています。私はそれを見守り、サポートしています。今年も個性的な学生たちと面白いプロジェクトが出来て、とても嬉しく思っています。

プロジェクトの感想

少子化問題をテーマに取り組んだ学生たちが、課題解決の糸口として少しでも子育てがしやすい社会を作る必要性を提案しました。どのようなプロジェクトを企画するのか楽しみにしていましたが、学生たちの「助け合える家族コミュニティーを作りたい」「心と心の距離を近づけたい」という思いが上手く反映されたプロジェクトになったように思います。サンディエゴに住んでいらっしゃるたくさんの日本人ご家族にも参加して頂け、私自身とても感動しました。学生たちにはこの経験を生かし、将来住みやすいコミュニティーを作っていってほしいです。

当日の写真



発表



と



く



当日の写真



当日の写真



目隠しゲーム



HUMAN KNOT



ボランテニア

当日の写真



SUMMARY

Although there are many responsibilities that come with having children, in Japan, it is often the case that parents with children do not receive much assistance from their partner, family, community, work, or government. When the younger generation see a difficult child-raising experience such as this, they begin to feel that child-raising is not worth the effort, thus causing the younger generation to not desire having children. As a result, the number of children as well as population in Japan continues to decrease. This is known as the declining birth rate phenomenon. It is a common issue in developed nations and is closely tied to the decline in workers and increased stress on social welfare infrastructure.

To address the declining birthrate issue, we (JAPN 135) developed a community service project called “Family Connect”, in which we aimed to build a community among local Japanese families who have moved to San Diego from Japan for work or higher education. We aimed to improve the image of child-raising among the younger generation. Our goal is to create community for these families in which they can regularly contact, support, and consult each other on child-raising while in the United States. If the younger generation see families who are happy with their child-raising experience, they will hopefully change their view of child-raising.

On April 30th and June 4th 2017, we held two “Family Connect” events on UCSD campus. In April, the Family Connect was graciously participated by two Japanese families, three Japanese Studies professors, and six volunteers. In June, five families and five volunteers participated in the final Family Connect. During the both events, we introduced cultural and communication issues that Japanese families may encounter in the U.S. Secondly, we held a discussion to provide a space for families and volunteers to connect with each other on topics related to their experience in the U.S as well as for families to discuss any difficulties they faced in child raising in the U.S. In the June event, we provided a guest speaker Q&A session with a representative of the UCSD Early Child Care Program. Afterward, we conducted two activities that aimed to develop collaboration, communication, and trust among families such as “Human knot” & “Charades.” The events were successful in execution of speeches, both activities, and the creation of a friendly atmosphere for the families.